



近一だより

重点目標
主体的に学び
互いに認め高め合う
子どもの育成
～やってみよう
自分から 自分たちで～

旭川市立近文第一小学校

令和7年度 第7号

令和7年10月31日発行

一つ一つ、考えながら前へ

校長 安藤 陽

舞い散る枯れ葉や冷たい風に、本格的な冬の訪れが近いことを感じる頃となりました。

先日、昨年度までの「学習発表会」が、新たな開催方法で「スタディフェスティバル」と名称も変更して、2日間にわたって行われました。残念ながら6年生は感染症の影響で別の機会に行うことになりましたが、どの学年も工夫を凝らし、主体的に取り組んだすばらしい発表となりました。それぞれの発達段階に応じて、自分たちで考え、努力を重ねてきたことが感じられました。

先ごろ、免疫学の分野で長年研究を続けてきた大阪大学の坂口志文教授が、ノーベル生理学・医学賞を受賞したという嬉しいニュースがありました。この偉大な発見は、「自分の頭で考え抜くこと」や「地道な努力を積み重ねること」の大切さを改めて教えてくれます。

私たちの身の回りでは、AIの発達や情報技術の進化によって、便利に答えが得られるようになりました。しかし、本当に大切なのは、得られた答えを鵜呑みにせず、「本当にそうだろうか?」「他にはどんな方法があるだろうか?」と、自ら疑問をもち、深く考えようとする姿勢です。

まさに、その姿勢を体現してきたのが坂口教授です。教授は、誰も疑問に思わなかった問題に光を当て、長い年月をかけて「なぜ免疫は自分の体を攻撃するのか」という問いに挑み続けました。その粘り強い探究の積み重ねが、世界を動かす発見へとつながったのです。

坂口教授の座右の銘は「一つ一つ」とのことです。今回の大きな成果は、一瞬のひらめきからではなく、毎日地道に、時には孤独に取り組みを「一つ一つ」積み重ねてきた結果でした。この姿勢は、子どもたちの学びにも通じます。難しい問題に出会ったときに、自分の力で解決の糸口を探すこと。すぐに結果が出なくても、焦らずに一步步取り組み続けること。そんな経験の積み重ねが、確かな学びと自信につながっていきます。



私たち大人にできることは、子どもたちが考え抜く時間を大切にできるよう、環境を整え、支えることです。ご家庭でも、すぐに答えを教えるのではなく、「もう少し考えてみよう」「ここまでよく頑張っているね」と声をかけていただければと思います。

子どもたちが自分の頭で考え、目の前の課題を「一つ一つ」解決していく中で、様々な困難にも立ち向かうたくましい力を身につけていけるよう、今後ともご支援とご協力をお願いいたします。

安全な登校とPTA活動へのご協力をお願いします

PTA広報誌「灯」第75号の原稿提出〆切は本日は。

お忙しいとは存じますが、全会員の掲載を目指しておりますので、まだ提出がお済みでないご家庭は、今年度も無事発行できるようご協力をお願いいたします。

朝夕の冷え込みが一段と厳しくなってきました。児童玄関の解錠は午前8時です。早く登校しても校内には入れませんので、あまり早い登校にならないようご配慮ください。

また、欠席連絡は8時10分までにお願いします。登校が確認できない場合は、安全確認のため学校からご家庭へ連絡します。時間内のご連絡にご協力ください。



スタディフェスティバル

22、23日の2日間にわたり、子どもたちは準備、運営、そして発表と、多岐にわたる活動に積極的に取り組みました。

特に、中学年以上の学年では、子どもたちが自ら企画・運営を手がけることで、学習活動の組織力や完成度の向上につながる、素晴らしい経験を得ることができました。

どの学年もこれまでの学びを活かした内容で、子どもたちは楽しみながら学びを深める2日間となりました。



↑リズムにのって、



↑赤い元気なお魚がいっぱいです!



↑より高く!記録に挑戦!



↑みなさんおなじみの「ごんぎつね」です

次々と技を披露!→



↓模擬運転に挑戦!



↓店員さんに質問中!



3年生

消防署出前授業

←放水体験!
防火服体験!
✓消防車にも
乗りました!



2年生
校外学習

鐘を鳴らして、↑



旭川北消防署さん、北海道モビリティスクールさん、光岸寺さん、セブンイレブン旭川東鷹栖一条店さん、ありがとうございました!